

## 意見の概要

日本の国土に住む私達の生活圏は、そのほとんどが洪水が流れる所より低いのである。わが埼玉もかつては利根川、荒川がまん中を流れておりましたので、大洪水が發生するとカスリーン台風の如き通り元の河道をほぞりまゝあり。江戸時代にはさらに大洪水が埼玉から東京を襲っておりました。(この時、秩父では20mも水位が上昇した) 国土交通省では、嘗々と堤防強化や遊水池、ダム等あらゆる手段を駆使して災害安全度の向上に努めて参つたようですが、堤防は、部分的に強化はその他の堤防の弱体化につながり、強度の均一化が課題となります。その点ダムは、それより下流に堤防すべでの養生が期待できません。3月11日の大地震で2ヶ所以上堤防がひびくことになりました。これらをもすべて修復するのほ容易ではありません。ハツ場ダムは完成向近です。これを急ぐべきでしょう。川域を慢性的水害から救つた原次郎翁も40年洪水と戦い、ダムの有用性を力説しました。

※楷書横書きで、できるだけ400文字以内で記載して下さい。